

「みやざきリサイクルバイオマス第2発電所」

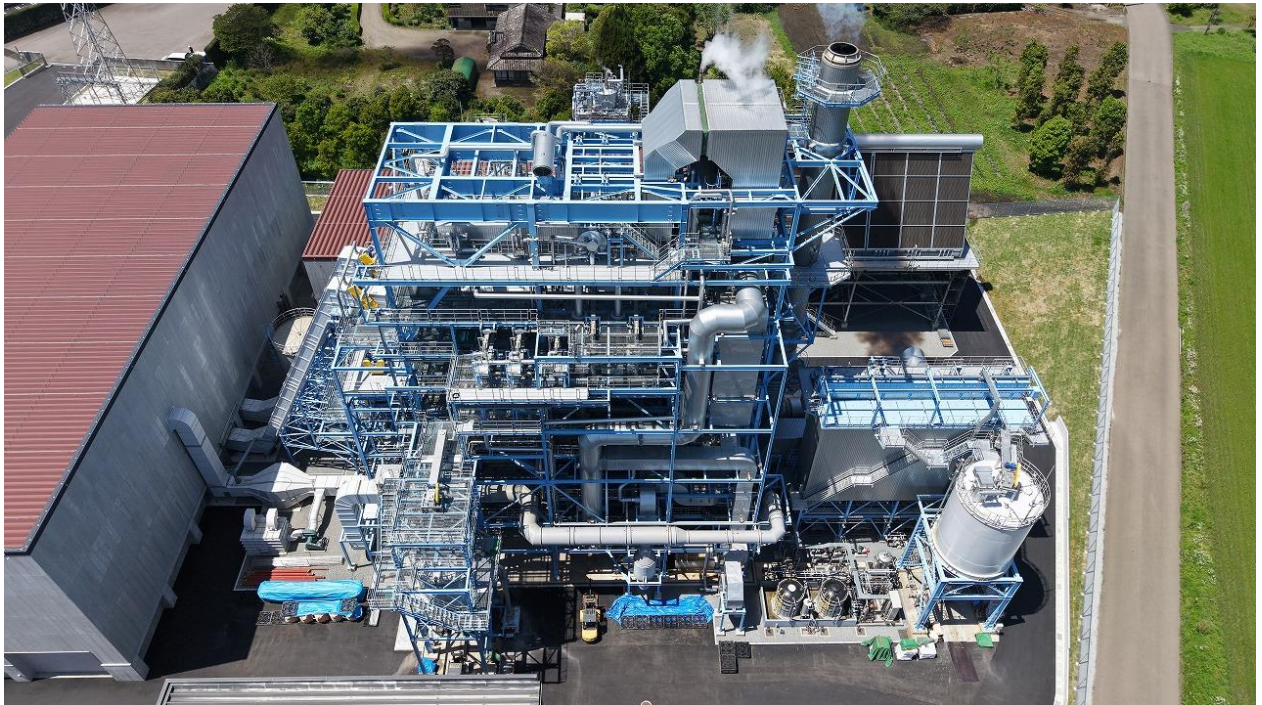
地域の課題解決、日本最大の鶏ふん発電

宮崎県内の養鶏農家やブロイラー会社と連携し、鶏ふんを燃料として有効活用するバイオマス発電事業を展開しています。

宮崎県は全国有数のブロイラー生産地ですが、鶏ふんの野積みなど不適切な処理によって、悪臭や地下水汚染といった環境問題が発生していました。これまで鶏ふんの利用は主に肥料が中心で、発電事業としては採算確保が難しいと考えられてきました。

本事業では、年間約13.2万トン（1日当たり400トン）の鶏ふんをボイラーで直接燃焼して発電し、約90%という高い稼働率を維持しています。発電後に残る焼却灰は肥料として再利用され、土壌改良にも貢献しています。

2005年から運転してきた第1発電所については、設備の経年劣化やF I T期間が終了したことにより、新たに第2発電所を建設し、2026年5月2日から営業運転を開始しています。



【設備容量】 11,350kW

【所在地】 宮崎県児湯郡川南町

【運転開始】 2026年5月

【使用燃料】 鶏ふん

【事業会社】 みやざきバイオマスリサイクル(株)
[九電みらいエナジー(株) 42%出資]

【事業パートナー】 農事組合法人児湯食鳥宮崎生産者組合、宮崎環境保全農業共同組合、
農事組合法人宮崎バイオマス利用組合、(株)児湯食鳥、
日本ホワイトファーム(株)、(株)ウェルファムフーズ、(株)山下商事